

沖合かご漁業開発試験

(第2県土水産資源調査)

曾田一志・福井克也

1. 研究目的

島根県の漁業者が利用していない資源、漁場を対象に新たなかご漁業を開発し、本県漁業の生産額を増加させる。本年はミスダコかご漁業開発の可能性について調査、検討を行った。

2. 研究方法

試験操業は調査船明風(41トン)により、主に県西部沖合の通称「根滝グリ」を中心に行った。使用した漁具は1連30かご、餌は冷凍サバを用いた。

かごは東北地方でミスダコ漁業に広く使われている「ダルマかご」と、本県パイかご漁業で使用されている「パイかご」を併用し、ミスダコの入かご率(かご数に対する漁獲されたミスダコ尾数の割合)の使いやすさについて比較を行った。また、「ダルマかご」は5、6、7節の3種類の目合を使用し、目合の違いによる混獲生物、入かご率等の比較を行った。

3. 研究結果

表1に試験操業の概要を、表2にかご種類別ミスダコ入かご率をそれぞれ示した。

(1) 操業結果

6月6日から調査を開始し、8月11日まで計12回試験操業を行った(延べ360かご)。操業水深は概ね130m~150m、設置した時間は47時間(2日間)~288時間(12日間)であった。漁獲されたミスダコは25個体(総重量215.4kg、平均8.6kg、最大18.3、最小0.6kg)であった。入かご数は最低0個体から最高で10個体で、平均入かご率は6.9%、各操業別では0%~33%であった。

ミスダコは瀬の周辺で多くが漁獲され、主な混獲物はアヤボラ、シライトマキバイ、トゲツノヤドカリ、ババガレイ、トラザメ、エンコウガニであった。操業期間中、水温は6から14の範囲で変化した。水温と漁獲との関係は明瞭ではなかった。

(2) かご種類の比較について

パイかご、ダルマかご(各節)に対しての入かご率はダルマかごで高かった(表2)。パイかごではミスダコは漁獲されず、エサだけなくなっている場合が多かった。またダルマかごの目合による入かご率の有意な差は見られなかった。操作性は、ダルマかごの方が軽く折畳めるため、収納性に優れていると考えられた。また、かごの目合が大目(5節、6節)の場合には、ミスダコの蝕腕が網目から出て、周囲に吸着し作業能率が低下した。

表1 調査結果一覧

| 調査期間 | 操業回数 | 延かご数 | ミスダコ尾数 | 重量(kg) | 平均重量(kg) |
|----------------|------|------|--------|--------|----------|
| 06.6.6 - 08.11 | 12回 | 360個 | 25 | 215.4 | 8.6 |

うち1尾は揚げかご途中で、食害を受けたため測定せず

表2 漁獲されたミスダコのかご種類別の入かご割合

| かご種類 | パイかご | ダルマ(5節) | ダルマ(6節) | ダルマ(7節) |
|------|------|---------|---------|---------|
| 入かご率 | 0% | 28% | 36% | 36% |